

授業風景



看護技術の基本 ベッドメイキングの実習



採血実習 専用のシミュレータを使用



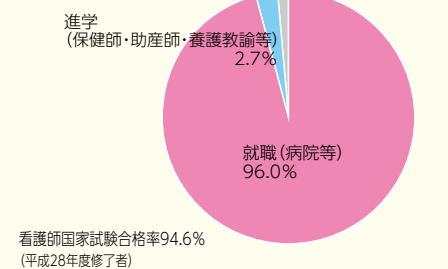
母性看護実習 新生児の観覧



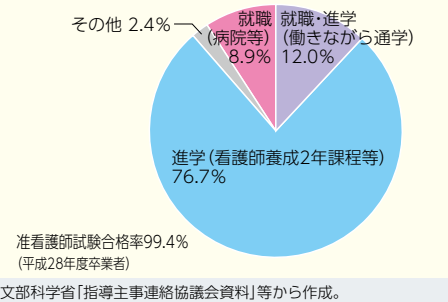
外科看護 手術室手洗いの実習

卒業後の進路

看護師養成 5年一貫 平成29年3月修了者



准看護師養成 3年課程 平成29年3月卒業生



5年一貫課程専攻科修了生からのメッセージ



留萌市立病院勤務
齋藤 史弥さん
(北海道美唄聖華高等学校
平成23年度専攻科修了)

現在、留萌市立病院の脳神経外科・総合内科の混合病棟に勤務しています。私は主に脳疾患により麻痺が残り、話すことや食べることに障害があるなど、日常生活において何らかの援助を必要としている方の看護に携わっています。

私がこの学校への入学を決めた一番の理由は、20歳で看護師として働き始めることができるという点です。高校の3年後専門学校を経て就職するというケースより1、2年早く社会人として経験できるというのは大きな意味があります。当時中学生の段階で親元を離れ、一人暮らしをしながら学校に通うという決断をするのは相当なものでした。しかし、その決断ができたからこそ看護師としての今があり、つらい事を乗り越えることのできる力をそこで培うことができたのだと確信しています。



広島大学病院勤務
藤岡 美紀さん
(広島県立広島皆実高等学校
平成20年度専攻科修了)

私が看護師として勤務する病棟は、がんと診断され手術や抗がん剤、放射線治療を目的に入院される患者が多くを占めます。私は「患者が受けてほしい看護」をモットーに、患者が安心して医療を受けられる環境作りや、日常生活の援助を行っています。患者の笑顔や「ありがとう」という言葉に心救われることも多く、看護師の仕事は人として成長できる職業だと日々感じています。

私は15歳で看護師を目指して学ぶことを決めました。大きな夢や期待と同時にいろいろな不安もありましたが、厳しくも優しい先生方の御指導、同じ目標をもった仲間と共に学べる環境が心の支えとなりました。看護師としての基礎を高校時代で身に付けることができたからこそ、今のような看護観を培えたと思っています。



千葉市役所保健師
(現在は青年海外協力隊員として
モンゴル国派遣中)
中本 雄大さん(写真右側)
(千葉県立幕張総合高等学校
平成19年度専攻科修了)

15歳から学び始めた看護学。始めに印象に残っているのは、近代看護の母ナイチンゲール。彼女が看護学にとらわれず、患者のことを考え建築学、統計学をもちいて患者がより良い環境で過ごせるようにしていたことだ。このため、看護学だけでなく幅広い知識を得るように心がけてきた。そのことが、文化などが違う異国モンゴルで活動することに生きている。例えば、社会主義国だったモンゴルで知られているレーニン名言「勉強して、勉強して、勉強しろ」をもじり「洗って、洗って、洗え」と手洗い、歯磨き指導などのときに伝えると伝わりやすい。小さなことだが、早くから看護を学べ、一般教養をゆっくりと深められたことが良かったと感じる。